

平成 29 年度 日本臨床工学技士連盟 理事会議事録

日時：平成 30 年 3 月 3 日（土）13：00～16：00

場所：大阪ハイテクノロジー専門学校

出席者：肥田泰幸 門田明正 小林剛志 田村守啓 熊谷誠 浦波智 関川智重

長尾尋智 五条敏和 三井友成 高山享 小峠博揮 山田佳央

欠席者：山下芳久 安部貴之 高橋満彦 山崎康祥 小林力

1. 開会挨拶（関川理事）

2. 理事長挨拶（肥田理事長）

これより平成 30 年度日本臨床工学技士連盟理事会を開催する。

3. 議案

(ア) 決算報告及び予算案（田村事務局長）

① 平成 29 年度活動報告

政治セミナー14回、理事長より PR 活動や懇親会へ数多く参加できた。

小林副理事長より提案

- ・ 今後我々の味方になってくれそうな派閥のセミナーへの参加
- ・ 今後我々の味方になってくれそうな議員のセミナーへの参加
- ・ 今後育成可能な議員のセミナーへの参加

会員数は増加傾向だが数、資金面において円滑な状態ではない。

西日本と東日本とで入会率に差があり、さらなる啓発活動が必要である。

事務局より、年会費を 2,000 円から 3,000 円に変更と、口座振込を Smart Pit に変更したが未納以外の問題はなく、クレジットカード会費徴収代行のロボットペイメント社でもコンビニ支払いが可能だったが手数料が高く見送られた。

SmartPit で施設分や技士会理事分の一括納入の打診が数件あり、申し出があり次第順次対応する。

② 平成 29 年度会計決算報告及び会計監査報告（資料参照）

収入の部：カード会員・SmartPit 会員収入、寄付金収入で ¥3,156,406 となった。

支出の部：管理費（会議諸費・旅費交通費・通信費・事業費・参加費・備品消耗品費）、および臨時支出（肥田理事長の連盟創設借入

金返済)で ¥2,591,381 となった。

当期収支差額と前記繰越で時期収支繰り越し差額は
¥1,447,706 となる。

監査報告 (高山理事)

平成 29 年度 適正な運営と判断し、理事会にて収支報告が承認された。

③ 平成 30 年度予算及び活動方針

[予算案 (田村事務局長)]

会費収入 1,350 名で ¥4,050,000 を収入目標としている。

支出は、管理費 (会議諸費・旅費交通費・通信費・事業費・参加費・備
品消耗品費)として ¥3,100,000 としている。

[活動方針 (肥田理事長)]

- ・ 会員増加で収入増加あり活動にも幅ができていますが、他団体と比べまだ
まだであり引き続き会員増加を図る。
- ・ 入会をトップダウンで促しても 1 割未満が限界と感じており、今後は中
間層のインターフェイスに働きかけ会員数を伸ばす。
- ・ 実力のある議員を見定めつつ議連の立ち上げに向けた活動を行う。
- ・ 直近では 木村義雄先生、自見はなこ先生、本間理事長と事前打ち合わ
せを 3/14 に行い、3/30 に野田毅先生を筆頭にした議連の創設に向け会合
を行うことになっている。会合に向け日臨工と連携を保ちしっかりした
資料を日臨工側より持つてのぞむことになる。
- ・ 議連の選出については慎重な対応が予測される。

(イ) 総務 (田村事務局長)

神奈川大会の計画について

- ・ 会員入会に向けブースの設置を日臨工本部横に設置する。
- ・ 都道府県窓口担当者の連絡会議として、日臨工総会后 10:30~11:30 で本
田宏先生より講演を調整し了解を得ているので、参集するように広報す
るよう整える。

(ウ) 組織 (小峠理事)

① 組織数の現状と今後について

- ・ 12 月末で会員数 1494 名と変わらず少ない状況である。
- ・ 各都道府県の臨床工学技士会における協力状況について、各県窓口担当
を通じて、アンケートを行ないました。集計結果から、東北・関東の一
部での協力が弱いようで、全体として西高東低の傾向が見られました。

② 都道府県のイベント時の啓発対応について

- ・ 各都道府県ホームページの連盟バナーの掲載についても西高東低の傾向であり、ホームページの掲載は日臨工と連盟がしっかり連携している印象付けになるので強化を図ってもらいたい。
- ・ 肥田理事長より、各都道府県総会の日程を事務局で集約しフィードバックするので各ブロック担当で啓発活動を取り行うようにする。
- ・ 福岡県で県内における細やかな政治活動を行う為に「福岡県臨床工学技士連盟」を立ち上げた。県内の国会議員はもとより、県議会議員や市会議員を対象として必要な活動を行う事を目的としています。会費無料。
→勝手連は注意が必要。(門田副理事長)

(エ) 渉外 (門田副理事長・小林副理事長)

① 昨年度活動報告と今年度の計画について

- ・ 門田副理事長より、人事院と交渉する内容として、公務員は 4 人しかいなく身分保障ができないため、みなし公務員の救済という名目で今国会から秋の国会にかけてお話いただき、臨床工学技士の責任と責務と今後の将来性と認知はどうかと国の議事録にのるので、その後に議連の立ち上げで追っかけてみてはどうか。
- ・ 小林副理事長より、議員の実力者や厚生労働省次官のような方で、我々を理解し力になってくれそうな方を育てることが必要なのではないかと
いう意見をいただく。政治セミナー等の参加は時間と費用に上限があるので的を絞っていき、志公会の河野外務大臣、中西先生、麻生大臣が望まれるが、他の先生では層が厚いためなかなか繋がらず浪費になる恐れがある。戦略として味方になってくれそうな所と大きい所を選び、行くのであれば大勢で、同じ人が同じ会へ出向き顔を覚えてもらえるのが大事である。人選には議論が必要だが地方と県と自分達の分を全国で分けることを方針とする。
- ・ 高山理事より、議連が立ち上がろうとしているので議連のメンバーが優先的になると思う。
- ・ 肥田理事長より、試行錯誤にはなるが狙えるならその方が良い。地方から人間関係作りでボトムアップする手もある。
- ・ 高山理事より、議連内メンバーとしては、他団体でも 100 人規模だった
りするので、中心メンバー20人に次のステップと色分けがいる。
- ・ 肥田理事長より、他団体での議連の総会にそうそうたるメンバーが出席

しており目指す形ではある。

- ・ 小林副理事長より、他職種で今までやってきたことを特別なことをせず今年度から点数が付いている場合もあり、また規制緩和で在宅に看護師しか回れないところを臨床工学技士も許可してもらおうというのも一つの手段なので、点数をつけることはもちろんだが規制緩和も同時に進める。

(オ) 選対（長尾理事）

- ・ 選挙は組織率や人数なので、各県でアピールをしながら、選挙時の配布物を誰に配るかなど顔が見える関係で構築して行く。地方支部制にはなっていないが統一選挙の時に推薦状へ印鑑を求められる話があるが現状としてないので、サインする時にどのようにしていくのかの議論が必要と思われる。

(カ) 学修（山崎理事）

次回持ち越し

(キ) 広報広報（三井理事）

① 広報物の発行とスケジュールについて

- ・ メールマガジン4ヶ月に1回発行。
- ・ 連綿新聞を1月にwebで発行。次回7月の予定。
- ・ 本間理事長へ連綿新聞を日臨工会員全員へ配布をお願いしたい。

(ク) 青年（山田理事）

- ・ 日臨工開催時にYボードとの連携を模索する。

(ケ) 事務局（田村事務局長）

① 事務局の現状報告

施設内での業務遂行に困難な状況があったが、事務局機能の改善傾向となりつつある。日本臨床工学会内への事務所設置に向け、活動の円滑化を今後の検討課題とする。

② 次回開催日

理事長と相談の上で開催日、内容を報告する。

4. 閉会